



JUNTOS!! 中南米対日理解促進交流プログラム報告
(派遣国：ブラジル 高等専門学校・大学生・大学院生
テーマ：ロボット・コンテスト)

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラムの一環として、ブラジルへ日本の高等専門学校生、大学生、大学院生ら計9名が派遣され、日本のロボット技術に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、平成28年10月6日から10月16日までの10泊11日の日程でプログラムを実施しました。参加者達はブラジル・レシフェ市で開催された、IEEE（米国電子電気学会）中南米ロボット・コンテスト、「ヒューマノイド・ロボット・レーシング部門」へエントリーし、見事1位・2位を獲得しました。その後、レシフェ市内や世界遺産であるオリンダ地区を視察し、派遣国についての知識を深めました。最終日には、在サンパウロ日本国総領事館を表敬訪問し、今回の経験や未来への抱負を総領事に報告しました。

2. 参加校・人数

東京工業大学 2名
東京電機大学 3名
仙台高等専門学校 4名

3. 訪問国

ブラジル連邦共和国

4. 日程

10月6日（木）

出発前オリエンテーション（於成田空港ロビー）
成田空港より出発

10月7日（金）

ヒューストン（米国）、サンパウロ（ブラジル）経由

10月8日（土）～12日（水）

レシフェ着
IEEE（米国電子電気学会）中南米ロボット・コンテスト参加
（準備～計測～表彰式）

10月13日（木）

レシフェ市内、世界遺産（オリンダ）視察
ワークショップ

10月14日（金）

レシフェからサンパウロへ移動
ブラジル日本移民史料館視察
在サンパウロ日本国総領事館表敬訪問
サンパウロ出発

10月15日（土）

（ヒューストン（米国）経由）

10月16日（日）

成田空港到着

5. プログラム記録写真

	
10/8 ロボット・コンテスト 初日 プログラム実施言語) ポルトガル語	10/11 ロボット・コンテスト 計測 プログラム実施言語) ポルトガル語
	
10/12 ロボット・コンテスト 表彰式 プログラム実施言語) ポルトガル語	10/13 レシフェ市内視察 プログラム実施言語) 日本語



10/14 ブラジル日本移民史料館視察 プログラム実施言語) 日本語	10/14 在サンパウロ日本国総領事館表敬 プログラム実施言語) 日本語
---------------------------------------	---

6. 参加者の感想（抜粋）

◆ 東京工業大学 大学院生

ロボコン会場での学生との交流が多かったが、初対面かつ国籍が違うにも関わらず、困ったことがあれば頼ってくれと言ってくれる人が多く、非常に親切かつ社交的な性格だと感じた。また、ブラジルではロボット技術があまり日常生活に取り入れられていないことが気になった。おそらく文化や生活環境、金銭的な問題が関わっているのだろう。ロボット工学を研究している身として、ロボットが必要とされる環境とは何なのか？という問題を考えるにあたり、ブラジルで得た情報を有効に活用していきたい。

◆ 東京電機大学 大学生

最終的に成績を残すことはできたものの、技術面では更に成長したいと感じた。普段はリモートコントロール式のロボットを製作しているため、今回初めて自立式を制作した。製作期間が限られていたため、出来るだけシンプルな方法で解決できる様に作成した。結果的には成績を残せたが、それでは技術的進歩がないと思う。逆にブラジルチームは技術を持っているが経験が足りないと感じた。この違いは、ロボットを部活としてやっているか、学術的にやっているかの差だと感じた。今回のロボコンを通じて、自立制御や画像処理といった、普段自分が取り組まない技術的な面にも興味を湧いたので、今後は技術を身に付け、IEEE 中南米ロボコンの延長として技術会等で発表を行いたい。

◆ 仙台高等専門学校（名取キャンパス）

ロボコン大会中はロボットの調整に追われ、ホテルに戻ってもやる事が沢山あり、大変だった。日本を離れて不慣れな環境下で「もの」を動かす難しさを痛感したが、この経験はエンジニアを志す者として非常に貴重でかけがえのない経験となった。また、会場では小さな子どもたちがロボットを製作・制御している姿を目撃し、衝撃を受けた。ロボットを楽しんでいる雰囲気を感じ、同じ様な雰囲気を日本で広めたいと感じた。ロボットは怖くも難しくもないことを、技術者以外の一般の人達に伝えたい。また、サンパウロのブラジル日本移民史料館で、日本の移民について詳しく知る事が出来た。現地での食事も思いのほかすぐに慣れ、日本と異なるお米も美味しいと感じた。将来またブラジルを訪れたい。

◆仙台高等専門学校（広瀬キャンパス）

ブラジルの文化や国民性を知る上で、とても有意義な体験ができた。彼らは人情深く、日本人が見習うべき「人との接し方」をしていると思う。また、日本人にあって彼らにないものとして「丁寧さ」を感じた。参加者に対するスケジュール連絡など、もう少し配慮が欲しかった。もう少し丁寧さがあれば、大会運営が良いものになると感じた。地球の反対側であり、往復するだけでコストがかかる国なので、交流は難しいが、交流を深めることでお互い改善されるのではと思う。交流のやり方は個人単位のものではなく、何か共通のものを集団単位で実施する方法が良いと思う。オンラインでのプログラミングコンテストなどが、てっとり早いと思う。

7. 参加者の対外発信

<p>活動報告No.103 IEEE中南米ロボットコンテスト Final <small>カテゴリ: IEEE中南米ロボット / テーマ: 趣味と日記 / ジャンル: 趣味・実用</small></p> <p>「Como estás?」(ポルトガル語でカジュアルな元気)</p> <p>この競技のタイム計測は屋12時までなのでこの時間まで我々の記録を破る権限がいなければ、1位入賞ということでしたが同じくこのプログラムに参加している東工大さんの権限が7.57秒というタイムを叩き出し、2位になってしまいました...</p> <p>それでも2位ということで表彰され表彰式の後にはこのロボコン参加者全員で集合写真を撮りました。</p> 	 <p>サンパウロ日本総領事館訪問時の全体写真。今回の渡航での成果や感想を領事の方に報告しました。報告を通して自分たちの考えや感じたことをまとめることが出来たと思うので良い機会だったと思います。</p> <p>全体的に振り返ると自分は国外で自国についての発信を行うというのはなかなか難しいものだなと感じました。発信のツールである英語力はもちろんですが、その国と日本の関係性や文化の違いを理解することがまず重要なことだと思いました。</p> <p>今後は大会等の場でこういった活動をしていることを広報していき、より優れた力のあるチームの参加者につながってほしいです。</p> <p>最後に今回の渡航を支援していただいた外務省様、渡航の全般のサポートをいただいたJICE様、日本チームとして様々な手助けをいただいた仙台高等チーム様、東工大チーム様に感謝の意を示し総括を終わりたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。心から感謝しております。</p>
<p>コンテストの計測で好タイムを出し、日本のロボット技術をアピール。テレビ局からの取材が入ったこと等を発信。</p>	<p>在サンパウロ日本総領事館を表敬訪問し、コンテスト参加の成果や感想を総領事へ報告したことを発信。</p>
<p>プログラム実施言語) ポルトガル語</p>	<p>プログラム実施言語) 日本語</p>